

査を行っている与那城村漁協で1985年以来同じである。また、他の石川市、勝連、沖縄市、中城漁協でも、漁獲サイズや漁獲量などの変化はあるが、発生群毎の漁獲状況は与那城村と同様な傾向を示した。

表6. カニ類の魚種別漁獲量 1989年

	単位:Kg、(%)					計
	タイワン ガザミ	ノギリ ガザミ	ジャノメ ガザミ	アサヒガニ	その他	
与那城	4,925(77)	418(7)	2(+)	97(2)	938(15)	6,380
沖 縄	7,578(90)	642(8)	0(0)	28(+)	159(2)	8,406
中 城	3,173(87)	186(5)	47(1)	14(+)	216(6)	3,636

与那城村、沖縄市、中城漁協の1989年におけるカニ類の魚種別漁獲量を表6に示した。タイワンガザミはカニ類中最も漁獲量が多く全体の8~9割を占め、カニ漁業の主要魚種となっている。その他にノギリガザミ、ジャノメガザミ、アサヒガニ、シマイシガニ等が漁獲される。

沖縄県のカニ類の生産状況を表7に示した。カニ類の漁獲量および生産額は1970年代に増加し、1980年代が約110トン、1億1千万と

安定した生産状況を示している。1987年における県計漁獲量37,283トン、生産額16,223百万円に占めるカニ類の割合は漁獲量で0.3%、生産額で0.8%を示した。

表7. 沖縄県のカニ類の生産状況(1972~1987年)

年	漁獲量	生産額
1972	19	5,373
1973	18	5,256
1974	58	19,063
1975	60	38,221
1976	42	11,896
1977	82	130,111
1978	80	85,419
1979	73	62,722
1980	126	120,153
1981	84	67,365
1982	96	108,000
1983	134	133,000
1984	124	127,000
1985	104	100,000
1986	119	121,000
1987	120	126,000

V 放流効果の検討

与那城村漁協におけるタイワンガザミの漁獲量、同地先における天然稚ガニの定着数と人口種苗の放流数などの推移を表8に示した。与那城村漁協のタイワンガザミの漁獲量は約10.3~4.0トンで変動幅2.6倍、漁獲尾数は6.2~2.6万尾で2.4倍の年変動を示した。天然稚ガニの定着数は調査初年の1986年が最高の103万尾、1989年は過去最低の11万尾と推定された。同地先におけるタイワンガザミの放流は1983年から行われ、1988年から10万尾単位の放流が実施されている。

資料から放流効果について単純に試算すると、1986~1987年に比べ、1989年の天然稚ガニの定着数は10.7~23.9%と1/4以下に激減したが、漁獲尾数は54.8~97.1%で1/2以上を示し、漁獲量の落ち込みは割と小さいことから放流による漁獲量の増加が想定される。天然稚ガニの定着数比から計算すると、1989年の天然群の漁獲尾数0.8万尾(1.2トン)以下、残りの2.6万尾(3.7トン)以上が放流群となる。また、天然の稚ガニ定着数に対する漁獲尾数割合は、